

三ツ沢公園の再整備に向けたサウンディング型市場調査（対話） 実施結果

<結果概要>

1 対話期間

令和5年11月30日から令和5年12月21日まで

※当初の対話期間は12月13日まででしたが、申込多数のため21日まで延長しました。

2 参加事業者数

17 法人又は法人のグループ

3 対話方法

直接対話

4 いただいた主な提案・意見（概要）

（1）事業への参画意向や想定される事業手法等について

- ・設計、工事、管理運営のいずれかに参画したいとの意向
- ・PFIによる事業に参画したいとの意向
- ・ネーミングライツ等により三ツ沢公園へ貢献したいとの意向

（2）再整備によって実現する三ツ沢公園のイメージについて

- ・スポーツの試合が無い日でも楽しめ、日常的に訪れたい新たな体験価値の創出
- ・地域住民や来園者が憩い交流できる場所づくり
- ・スポーツや多様な活動を通じた健康増進への取組
- ・最新のテクノロジーを活用したサステナブルな公園づくり

（3）新たな球技場整備や公園を再整備する考え方について

- ・三ツ沢公園再整備基本構想（案）のゾーニング図を前提として事業実施に向けた設計や工事、運営の提案
- ・三ツ沢公園再整備基本構想（案）で示したゾーニング図を変更する提案

5 今後の進め方

今回、三ツ沢公園の再整備に向けた様々な提案や意見をいただきました。この結果等を踏まえ、施設配置やPFI等による事業手法について様々な選択肢を検討していきます。

<対話項目ごとのご提案・ご意見>

対話項目	ご提案・ご意見
現在の三ツ沢公園に対する評価	
アクセス性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車やバス、地下鉄等でアクセスしやすい。 ・ 市民病院が公園隣接地に移転したことにより三ツ沢公園の認知度が上がり、横浜駅からのアクセスが良くなったという印象がある。 ・ 他の公園に比べ徒歩で来園する人が多く、徒歩以外での交通手段の偏りが少ないと感じている。 ・ 駅から距離や高低差があり、利便性はあまり高くない。 ・ 周辺道路の交通混雑や、駐車場が少ないなどの課題があると認識している。 ・ 第三駐車場付近の道路に路上駐車が多数ありと感じている。 ・ 駐車場が足りないのは年間 20 日程度と認識しており、大幅に増やす必要はないと考えている。 ・ サッカーの試合日は、テニス利用者の車の入れ替え待ちで駐車場が混雑する。 ・ バイク専用の駐輪場がないため、自転車と分けた方が便利になるのではないかと。
利用形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の公園はスポーツ関連施設が主であり、目的を持って人が集まるので、物販・飲食施設で事業性が見込める。 ・ 観光向けの公園ではなく、市民向けの公園というイメージがある。 ・ 一般的に運動施設は平日閑散としており、運動公園での収益性は厳しい。 ・ テニスコートは利用率が高く、面数を増やしたい。 ・ テニスコートは利用率が高いが、大会ができる規模にない。コートの増設やセンターコート、クラブハウスがあれば大きな大会も実施できる。さらに車いす用のハードコートが必要である。 ・ 馬術練習場は、馬が障害物を飛び越えるための十分な広さがない。 ・ 来園者の利用目的は運動が多いが、スポーツに限らず、散歩や遊び、憩いなどの多様な利用もなされている。 ・ 自由広場や桜山に訪れる来園者が多く、地域住民の貴重なオープンスペースになっている。 ・ 複数のスポーツ大会が同時に開催されると、公園内が非常に混雑する。 ・ 市民病院側の公園入り口は入りやすいが、南側の入り口は人が集まりにくい印象がある。住宅地があるのもっと人が集まりやすくしたらよいのではないかと。 ・ 公園内の桜は更新時期にきているものが多く、60 年以上残すのは難しい。 ・ 老木をそのままにしておくとも事故も起きるため、段階的に更新していくとよいことを示した方がよい。 ・ 老木化した樹木の移植は難しい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桜は剪定に弱く、普通の移植方法では難しい。 ・ 当社グループ企業には樹木医もいるため、桜の更新なども力になれる。
<p>周辺環境など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 球技場と市民病院が隣接しており、騒音の懸念がある。 ・ 試合以外のコンサートやイベントを行う場合、周辺への配慮が必要である。 ・ 三ツ沢上町駅から球技場までの動線に集客できる飲食店等がほとんど無いので、楽しめる賑わい施設ができるとよい。 ・ 騒音や交通渋滞などにより、地域住民に負荷が生じている。 ・ 地下鉄から球技場までの動線をわかりやすく案内ができるようになるとよい。 ・ 駅からはバスを利用する人も多く、バス乗り場が混雑しており、改善したい。 ・ イベント開催時の駐車場不足や、臨時駐車場以外の駐車場が時間払いのため出庫に課題がある。 ・ 避難指定場所でありながら通信環境が未整備である。
<p>三ツ沢公園の再整備に向けた事業提案</p>	
<p>事業コンセプト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツに加えて、多様な活動により、市民の健康づくりに力を入れたい。 ・ 「user experience」「local value」「social issue」「play value」の4つを組み合わせ、多様なコンテンツの提供と先端テクノロジーを備えたサステナブルなスタジアム整備し、スタジアム・公園を中心とした周辺地域に貢献できるスマートシティの実現。 ・ スポーツの試合だけでなく、試合前後や試合の無い日でも楽しめ、日常的に訪れたい新たな体験価値を創出する。 ・ 市民が平日に寄りたいたいと思える公園。 ・ スポーツに特化した公園。 ・ 地域の暮らしや現行利用者に配慮した、既存施設を可能な限り活かしたコンセプトが望ましい。 ・ 誰でも楽しく健康的なまちというコンセプトで、周辺住宅地と一緒に一つの健康的な施設を作り上げる。 ・ 有機的に公園と一体化するスタジアムの整備。 ・ 地域住民と来街者の市民活動・交流の核となる広場の整備。 ・ 球技の聖地として、多世代が集い交流する多目的グラウンドの整備。 ・ 利用者の利便性を高めると同時に環境にも配慮された、官民連携での未来のスマートエクスペリエンスパークとしての展開。 ・ プロスポーツイベントの華やかな時間と、地域の日常利用が両立した開かれた施設づくり。365日いつでもまちのリビングのような場所にする。 ・ まちと連携し、また来たいと思える場所としてつくり、地域の社会課題をスポーツや人が集まるコミュニティの力で解決策を牽引するような公園とする。

事業内容

(1) 球技場

- ・ 球技場単体であれば、利用料金を上げれば球技場での収益で管理運営していくことは可能だと考えている。
- ・ 三ツ沢公園は敷地が限られていることから、球技場はコンパクトに整備するとよい。常時8～10割集客できる規模とする。
- ・ 子どもたちが球技場の芝生グラウンドに入れる機会を設ける。
- ・ 試合日以外のスタジアムでのライブビューイングなどで利用率を上げる。
- ・ 新たな球技場のグラウンドは天然芝とし、既存の球技場は人工芝に変更することで稼働率を上げる。
- ・ 新球技場と既存の球技場とを機能分担し、既存の球技場は人工芝でも対応できるスポーツの球技場として日常的に利用できる施設としてはどうか。
- ・ 市の構想案に示された位置での新球技場は建設せず、他の公園施設や公園利用への影響が少なくなる現球技場の現位置での建替えを提案する。一方で利用日数の減少が生じることから、旧深谷通信所跡地活用などの見通しが立った段階での実施が必要ではないかと考える。
- ・ 造成費用は市民サービスに直結するコストではないので、陸上競技場の位置に球技場を建てる方が効率的ではないか。
- ・ 既存の公園施設がある中で段階的な整備計画を立てるとすると、新球技場は現在の構想案の位置が適していると考ええる。
- ・ 平らな場所に整備する方が計画の自由度が増す。
- ・ 平らな場所に整備する方が計画の自由度も増すが、本敷地のように高低差のある場合でも、その高低差を活用した断面、動線計画が可能である。
- ・ いま平らな場所にある陸上競技場や補助陸上競技場をどこに移転するかも課題であり、それらの施設を動かさない状況にあるのであれば、基本構想案に示されている場所につくらざるを得ないとも思う。
- ・ 屋根が架かることによって、現在のピッチの水準を保つことは難しいと思う。利用日数が少なくなる可能性は高い。
- ・ 地域に開かれたデザインのスタジアムを整備。使われ方や素材なども含めて様々な工夫が考えられる。
- ・ 新たな球技場の規模は1.5～2万人規模が適正と考える。3万人規模は現実的に厳しい。
- ・ 球技場の利用料やチケット収入だけで収支を合わせるのは難しいと考えられるため、試合の開催以外にも収益化できるコンテンツが必要。
- ・ コンコースでのイベント実施、諸室をオフィスや教育事業に活用することも考えられる。
- ・ 新たな球技場は災害用の物資を保管し、防災拠点としたい。
- ・ 住宅街や小学校と近いので、子どもを対象とした事業がしやすい。

(2) 陸上競技場・補助陸上競技場

- ・ 陸上競技場は多くの利用が見られることから、市の中心部に立地するアクセ

ス性も踏まえ、神奈川県下の地域スポーツの振興拠点としていきたい。

- ・ 補助陸上競技場をフットサルコートとして活用してはどうか。
- ・ 陸上競技場を移転させ、多目的グラウンドを整備してはどうか。

(3) テニスコート

- ・ テニスラケットのレンタルやボールの販売などができる施設があるとよい。
- ・ 車いすテニスにも対応できるよう、ハードコートが必要。また、コート増設に加えて大会運営等の際に利用するクラブハウス等もあった方がよい。
- ・ テニス利用者は車での利用が比較的多いため、駐車場があり、大会運営できる規模のテニスコートを持つ場所が他で整備できるのであれば、三ツ沢公園ではない場所でよいと思う。
- ・ テニスコートの削減は、大会イベントの開催誘致や支援、テニスを通じたウェルビーイングの推進にも支障をきたす懸念があり、現在の面数を確保すべき。

(4) 園路・広場

- ・ 公園内に十分なオープンスペースがあれば、市民利用ができる様々なイベント等にも活用できるとともに、管理費に充当する収益確保にもつなげられる。
- ・ 公園内に芝生エリアを整備し、子供からお年寄りまで利用できる場所とすることで、公園を訪れるきっかけづくりを図る。
- ・ 新球技場の周辺に広い広場を設け、試合時の混雑緩和や賑わい創出を図る。
- ・ 桜山エリアにウッドデッキを設置するなど、桜の開花時期以外にも市民が滞在するスペースを設け、憩いと賑わいの空間としたい。
- ・ 幅広い園路を整備して賑わいの創出を図るとともに、災害時にも対応できるようにする。
- ・ 花や緑が充実した多目的スペースや草地広場があると賑わいが創出できる。
- ・ 桜山エリアで休憩施設や遊具のある広場を整備する。
- ・ 芝生広場を中心とした多様なイベント（ヨガ教室等）を行い、地域住民と来街者との出会いを促進する。
- ・ 高速道路で南北の公園エリアが分断されているため、新たに歩道橋を設けるなどして回遊性を向上させたい。
- ・ 来場者の増加に対応するため、交通ターミナルを整備する必要がある。
- ・ アクセスの改善が必要であり、交通広場を整備したい。しかし、平地がないため難しい。

(5) トリムコース（健康増進）

- ・ 高低差のあるコースや平坦なコースなど、様々なウォーキング/ランニングコースをつくることが考えられる。また、健康器具とデジタル技術が連動したソフト事業（市のウォーキングポイント制度等）を展開し、市民の健康増進に寄与するなどの運用も考えられる。

- ・ トリムコースの充実を図るべき。新球技場を現位置で建て替え、そのスタンド下を利活用してランニングステーション等の機能を備えたスポーツコンプレックスを設置し、公園全体のサービス機能を向上する。
- ・ ランニングステーションや物販店舗を球技場に併設することが考えられる。

(6) 賑わい機能（収益施設）

- ・ カフェなどの飲食施設やグランピングなどのアクティビティ、健康と親和性の高いウェルネス施設などのテナント誘致が考えられる。
- ・ 新横浜通りに面するエリアにドライブスルーで利用できる飲食施設を設けてはどうか。
- ・ 駅からの動線にわくわく感を生み出す仕掛けをつくり、公園やまちをブランディングしていけるとよい。
- ・ 日常的に多くの来園者がいるので、飲食施設の計画が考えられる。
- ・ スポーツ利用者が多いので、スポーツジムや温浴施設をつくることが考えられる。
- ・ 雨天時でもイベント等ができる屋内施設があるとよい。
- ・ スマートパークとして、道の駅などの商業施設や環境に配慮した宿泊施設、最先端のIoTを活用した実証実験や体験ができる場などを整備する。
- ・ 馬術練習場の周辺に子ども向けのポニー乗馬施設や動物ふれあい施設を設けることで、さらなる賑わいの創出につながる。子どもの遊具エリアとの親和性もある。
- ・ 馬術練習場利用者は車で利用が比較的多いため、駐車場があり、馬が障害物を飛び越せる広さを持つ場所が他で整備できるのであれば、三ツ沢公園ではない場所でよいと思う。
- ・ カフェやレストラン、遊戯施設などの運営が考えられる。
- ・ スタジアム内外にフードコート等の飲食機能を入れることが考えられる。
- ・ 食べ物やグッズの移動販売や無人販売といったスタイルも考えられる。
- ・ 近隣には住宅もあるので、日常的に訪れる可能性のあるスーパー等を含む複合的な商業施設を設置してはどうか。
- ・ アクセス面や競合施設の立地状況等から、三ツ沢公園ではコンサートの開催は難しいと思う。
- ・ 宿泊機能も設けられるとよい。

(7) 青少年野外活動センター

- ・ スポーツ施設があれば合宿所の需要もあり、野外活動センターを活用することも考えられる。
- ・ 当社グループ企業にはグランピング施設の経営実績もあるため、そのノウハウを生かして野外活動センターに関しての提案もできると思う。
- ・ 青少年野外活動センターは、市内に2か所ある他施設との再編も考えられるのではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年野外活動センターは、市内に3か所しかない施設であることから、引き続き利活用すべき。 <p>(8) 駐車場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の空き状況の表示を、高速道路の出口などのアクセス動線上に設置することで、駐車場待ちによる渋滞の緩和が図れる。 ・ 駐車場の予約制を導入することで、駐車場を探すアイドリング対策や渋滞対策になる。対価として予約料金を設定すれば収益化にもつながる。 ・ 試合のない閑散期の駐車場スペースを活用したイベントの実施が考えられる。公園駐車場のスペースを活用したテレワークやワーケーションの取組も考えられる。 ・ 駐車場にカーシェアリング用のEV車両を導入し、災害時の電源として活用する。 ・ 第1もしくは第3駐車場の立駐化を図るべき。 <p>(9) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化が進む第1、第2レストハウスは、再整備を機にリニューアルすべき。 ・ インクルーシブな公園施設としたい。 ・ 夜は暗くて公園に入りにくいので、電力が不要な太陽光の照明を設置し、夜も明るく人が集まりやすい公園にしたい。 ・ 健康促進や防災活動推進のためのイベント企画ができる。 ・ 災害用トイレの設置や、日常利用のトイレをきれいに整備し、だれでも使いたくなる空間とすることは大切。授乳室を設置し、女性が子供を連れていくのに抵抗がないようする工夫も必要。
事業手法	<ul style="list-style-type: none"> ・ PFI や P-PFI 方式による事業化が考えられる。 ・ PFI 法による PFI は SPC が事業リスクを持ってないため、テナント誘致の面でデメリットがあると捉えている。 ・ PFI や P-PFI は事業を成り立たせるのが難しいと考える。 ・ スタジアムの事業実績としては、BTO (Build Transfer Operate)、RO (Rehabilitate Operate)、コンセッションの各方式を組み合わせた事業や、DBO (Design Build Operate) と P-PFI を組み合わせた事例がある。 ・ BTO の場合、建設コストに資金を割かれて運営経費が減らされることに懸念がある。建設と運営は分けて発注してほしい。 ・ DB 方式でスタジアムを建設し、指定管理で運営するのが現実的ではないか。 ・ 指定管理者制度により民間ノウハウを最大限生かすことで、市の支出を最小限に抑える方法が妥当。 ・ 設置管理許可での球技場整備は考えづらい。それであれば市が建設してスポーツチーム等の利用団体が運営すればよいと考える。 ・ 球技場単体であればコンセッション方式の可能性はある。 ・ 収益化しづらい他の運動施設等も一体となったコンセッションは難しいと思

	<p>う。市民利用中心の陸上競技場は収支が成り立たない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 球技場に限らず、収益性のある施設であれば、コンセッションやプロフィットシェアを適用することは大いに考えられる。 ・ コンセッションは民間側で運営権を持つことのリスクもあり、詳細な検証を行う必要がある。 ・ プロフィットシェアの考え方は大事だと思うが、実効性としては疑問がある。 ・ 事業形態としてプロフィットシェアはあり得るが、民間主導の事業がいかに収益化できるかによる。 ・ 球技場及びその他の施設の再整備を、異なる事業方式のもと、それぞれ別発注になっても事業を担うことは可能。ただ、公園全体は一つの管理者が担うべきではないか。球技場とその他施設の管理を分けると全体の管理がうまくいかない懸念があると思う。 ・ 事業規模として、スタジアムとそれ以外は切り分けた方が参画しやすい。 ・ 計画段階から多くの企業が参画しなければ時間的なロスを生じるのでは。コンソーシアムなどをつくり、再整備事業を進めていくのがよい。 ・ 100%民設で球技場を整備することは難しい。 ・ スタジアムの収益化は見込めると思う。 ・ スタジアムの収益化は難しいと思う。 ・ スポーツターフの養生による利用制限に加え、興行面における周辺地域の競合施設の増、周辺住宅に対する騒音への相当の配慮の必要性などから、スタジアムの収益化は難しいと思う。 ・ 現状のテニスコートの利用料金は安く、収益施設とは捉えていない。利用料金を上げればプロフィットシェアも考えられる。 ・ 事業化に向けた資金確保策として、ネーミングライツ、広告、球技場スタンド下を活用した飲食等収益機能の柔軟な導入、市民や企業等からの寄附、ガバメントクラウドファンディング等が必要。
事業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定した収益のもと投資回収が見込める一定の維持管理運営期間としては10年程度が望ましい。 ・ 投資が発生するなら事業期間は10～20年程度がよい。30年などの長期間も検討可能だが、これまで携わった事業は20年が最大。近隣地域と良好な関係を築き維持していくためにも、10年から20年の管理運営期間を設定してもらいたい。 ・ 15年程度が想定される。30年などの長期は想像できない。 ・ 事業期間は15年～20年程度が望ましい。 ・ 20年程度。事業期間は長い方がよい。 ・ Park-PFIは20年とされているが、30年に延長するなど事業期間は長い方が投資しやすい。 ・ 最低でも30年。さらに言えば50～100年など、スタジアムがあり続ける限り携わっていきたい。 ・ 設計期間としては、基本計画で半年から1年、基本設計、実施設計で2年程

	<p>度はかかる想定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本構想案での計画の場合、造成や移植等に時間がかかるので、球技場の工事には3年はかかる。
<p>三ツ沢公園再整備 に関連する技術・ ノウハウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> BIM/CIM や、ドローンを活用した 3D モデルによるシミュレーションなどにより、調査・計画・設計段階からその後の施工、維持管理の段階において、公園利用者への情報提供や、業務の効率化・高度化が図れる。 先進 AI 技術を用いたコンテンツの導入や最新のテクノロジーによる設備を導入することで、世界に誇れるスタジアムにできる。公園全体に AI カメラの設置や異常検知システム等、安全な公園を作ることも考えられる。 欧米のスタジアムでは、メインコンコースを GL（グラウンドレベル）に設定し、地面を掘り下げてピッチにしている例が多い。掘削による造成費用がかかる半面、メインコンコースを GL に設定することで通行・滞留等のスペースを広く取ることができ、かつスタジアムの構造体を減らし、コスト削減を図ることもできる。 屋根の庇部分に ETFE（透明膜素材）を用いることで、芝への日照を確保できる。 ETFE は軽量かつ耐久性に優れ、汚れが付きにくいいため定期的な清掃の必要性は他の素材と比べて圧倒的に低い。 外部に芝の圃場を確保し、定期的に芝を張り替えることで稼働率を上げる方法もある。ただし、どのくらい稼働率が上がるかは様々な要因があるためわからない。 基本構想案の位置での工事は、敷地が狭く仮設ヤードが取りづらいことや、高低差があり工事車両の搬出入などが難しく、難易度は高い。コストをかければ施工は可能である。 スタジアムに屋根を架けるとすると、どのタイミングで施工するかが重要。大型のクレーンを複数稼働させることが想定されるが、屋根を架けることでクレーンが動ける範囲が狭まり、それが工事コストにも影響する。 基本構想案の位置での施工の場合、造成費用はもちろん、擁壁の築造や建物で地盤を抑えることにも相応のコストを要する。 桜は老木化が進んでおり更新時期を迎えているなかでの移植は難易度が高いため、桜を根ごと機械移植する方法が考えられる。 桜の更新は、地域住民と一緒に桜の状態について勉強しながら行うと理解が得られやすい。 遊戯施設や体験教室、飲食店舗等と組み合わせたサードプレイスの視点での公園管理運営の実績があり、施設で働く人々の教育面や地域連携、ボランティアの運営などのノウハウを活かせる。 まちづくりの一環として遊具や休憩スペースのファニチャーを市民とともに製作した実績があり、地域連携を図る取組のノウハウを活かせる。

<p>三ツ沢公園再整備に向けた各段階における関与の可能性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業期間中の運営やスポーツ施設の整備、維持管理に携わりたいと考えている。PFI 事業として SPC を構成して事業参画することを想定している。 ・ PFI 事業に積極的に取り組んでおり、SPC の代表企業として参入したい考えもあるが、事業規模次第である。スタジアム整備の規模であれば、コンソーシアムの一員として参加することも想定している。 ・ PFI であれば SPC の代表企業として、事業のマネジメントや建設、資金調達を担い、設計や施設の運営・維持管理は SPC の他の構成企業が担うイメージである。 ・ PPP や PFI に注力しており、代表企業の実績も多い。建物や公園管理に幅広く関わっており、維持管理と運営をセットで出来ることが強み。メインは建物施設の維持管理を想定しているが、低廉かつ効率的な維持管理を想定した設計計画の提案も可能。 ・ PFI の場合、SPC の一員として参画することが考えられる。 ・ 三ツ沢公園は横浜市のスポーツ振興の重要施設の一つと認識。公園施設のメンテナンスのほか、地域住民とのコミュニケーションの場の設定なども含め、公園をより魅力的にしていくことに幅広く貢献していきたい。 ・ 指定管理費をいただき、建設から携わり公園全体を指定管理で運営していくことをイメージしている。球技場の整備はできないが、フィールド等の一部は施工可能。花と緑、健康増進、防災などについて運営の中で携わりたい。 ・ スポーツ施設の運営面で長期的に携わりたい。 ・ 公園全体の管理運営に携わりたい。 ・ 下請けとして球技場の整備に関与したい。 ・ 駐車場の整備管理運営に参画したい。 ・ 桜山エリアなど公園内の一部エリアの計画、設計に携わりたい。 ・ 設計と工事への参画を考えている。 ・ 球技場や公園再整備計画の企画段階から携わりたい。 ・ 球技場の企画段階から運営に携わりたい。 ・ 球技場を含む公園全体の設計に携わりたい。
<p>その他の提案・意見など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業とは積極的に連携したい。 ・ 管理許可使用料は、事業参画しやすい料金設定であるとよい。入場者数に応じて使用料が変動するシステムだとよい。 ・ 市民病院や横浜国立大学、横浜駅周辺の飲食店などと連携できるとよい。 ・ 地域の人が参画できる仕組みづくりをすることで公園に愛着を持ってもらうとよい。 ・ ネーミングライツには積極的に参画したい。 ・ これまで長年関わってきた経緯もあり、将来にわたって三ツ沢公園には何らかの貢献をしていきたい。 ・ 市のネーミングライツの募集と弊社の広告意向のタイミングによっては、ネーミングライツに参画する可能性はある。 ・ 球技場内への広告掲出や座席などのエリアネーミングライツに関心がある。

- ネーミングライツそのものに参画する予定はないが、ネーミングライツのパートナーを探してくることが公募条件に入っていれば、事業コンセプトにあった企業と連携しやすい。
- ネーミングライツのパートナーを探してくることが公募条件に入っていると、事業リスクが高まると捉える。
- テニスコートは、30面以上の用意とセンターコート、利用者が集えるクラブハウスが設置できれば、大きな大会が開催できるようになり、ネーミングライツなどを取り入れられる可能性も考えられる。
- 基本構想案の場合、スタジアムが地下鉄の駅から近くなることは利点である。
- 2つの球技場があることによる相乗効果は期待できるが、一方で同時に大きなイベントを開催する場合の安全性の確保は課題である。
- 市内中小企業が事業参入しやすくなるように配慮してもらいたい。
- 事業提案から工事着工、管理運営まで、事業期間中の物価変動リスクについて、複数の指標を用いるなどの配慮をしてほしい。
- 三ツ沢公園が過渡期に来ているのは間違いないので、事業としては進めるべき。古い施設は更新せざるを得ない。
- PFI事業など施設整備が含まれる事業手法となる場合、事業者選定の際に、施設整備だけでなく管理運営の内容も評価される採点基準としてほしい。
- しっかりとした事業提案をするためには、設計や積算等で半年以上はかかるため、今後事業公募があるとすれば、募集期間は余裕をもって設定してほしい。
- 適切な工期を設定してほしい。本件の場合、造成や本体工事以外にもインフラの移設等で時間を要する可能性も考えられる。また、電気系のケーブルなど建設資材の納期も長くなる傾向にあるため、そういったことにも配慮してほしい。
- 既存インフラの図面がないことが多いため、事前調査を行ってからインフラ設計を行い盛替工事をする必要があり、期間と費用がかかる。
- 建築手続きなど法令上必要になる手続きはあらかじめ市で確認をお願いしたい。
- 事業参画するには設計や施工、管理運営と様々な企業との連携が必要となるので各企業とマッチングできる機会があるとよい。